

令和8年度 安全管理優良受注者 安全管理事例集

目 次

射水建設興業 株式会社	.. P. 1
小国開発 株式会社	.. P. 2
北川ヒューテック 株式会社	.. P. 3
小杉土建工業 株式会社	.. P. 4
株式会社 関組	.. P. 5
創和ジャステック建設 株式会社	.. P. 6
田中産業 株式会社	.. P. 7
中越興業 株式会社	.. P. 8
砺波工業 株式会社	.. P. 9
富山地鉄建設 株式会社	.. P.10
株式会社 豊蔵組	.. P.11
日本道路 株式会社	.. P.12
日本海建設 株式会社	.. P.13
株式会社 笛田組	.. P.14
藤森建設工業 株式会社	.. P.15
北陽建設 株式会社	.. P.16
宮口建設 株式会社	.. P.17
株式会社 山崎組	.. P.18

(50 音順)

令和8年 9月14日
北陸地方整備局 企画部

射水建設興業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理に関する基本方針

人命の尊重を最優先とした安全の確保と快適職場に取り組み「事故ゼロ」「災害ゼロ」の職場作りを推進する。

②安全管理体制の構築

職場の安全、衛生と従業員の健康保護・促進に資する担当として「安全衛生委員会」を設置している。安全衛生委員は各部署からの選任で毎月開催すると共に、毎月の「店社安全管理重点目標」を設定し、議事録を全社員に周知して情報の共有を図っている。

③安全衛生活動の実施

外部講師による安全研修など工夫した取組で、社員や協力業者一人一人の安全への意識高揚を図っている。全社員を対象にした班編成による安全パトロールを月1回および不定期の頻度で実施し、良い事例を含め実施結果を全社員に周知している。

2. 現場等における具体的な取組事例

①神通川・有沢堤防強化その6工事における安全管理上の課題

本工事は神通川の堤防強化対策の一環として、堤防の嵩上げ・拡幅を施工するものである。工事範囲には県道7号富山八尾線および市道有沢29号線があり、工事の進捗に伴い市道の通行止や県道迂回路の切替を計3回行う必要があった。工事は県道迂回路沿線での施工であり、工事用車両の出入もあることから第3者交通の安全確保が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

CIMによる交通規制方法のモデル化とシミュレーションを行うことで、工事関係者全員が適切な交通規制方法・作業手順を確認した。現場独自で考案した注意喚起看板や路肩明示の設置により、第3者に対してより注意を促すことで事故防止を行った。土砂・アスファルト合材・砕石など工事材料の運搬に関して、運搬経路上の注意点や現場出入口を記した「安全運行マップ」の動画を作成し、交通災害防止の工夫を行った。



県道迂回路切替作業 CIM モデル



県道迂回路 路肩明示



安全運行マップ動画版

3. その他工夫している点

非出水期以降、盛土材を現場付近の高水敷に仮置し、仮設坂路を設けて盛土施工(12日短縮)
オーバーレイ舗装 t=5cm/層を大粒径混合物 t=10cm/層に変更して施工(9日短縮)

日中・夜間同時施工により工程促進(14日短縮) 県警発注の信号施設工事と調整を図り、市道有沢29号線の通行止を計画より11日早く解除するなど、工程管理でも工夫を行った。

小国開発株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①現場と本社一体となつての安全管理体制の構築

外部コンサルタントの活用その他、月例の店社パトロールでは社長以下幹部が参加しての安全管理と、日々の巡視でも幹部が参加し支援を行っている。

②手順書の最適化と見直しの実施

店社パトロール等において作業手順の現場でのヒアリングと手順書の齟齬等を確認及び修正をする等、ブラッシュアップを図っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①小川沢砂防堰堤工事における安全管理上の課題

本工事は、マギノ沢上流に新設する小川沢砂防堰堤の工事用道路及び、砂防堰堤を構築するものである。河川内での作業の為、降雨による急激な増水が懸念された。

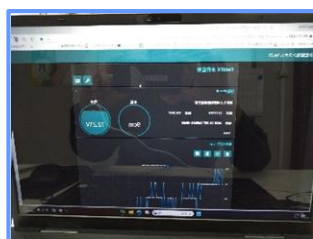
②課題に対して現場で行った安全対策

1. 危機管理型水位計(Field-EX)を設置し、水位情報がパソコン、携帯から常に確認できるようにした。設定した閾値を超えた場合には、携帯、パソコンに緊急通知メールが入ってくるようになっている為、即時、情報共有する事ができた。

2. 現場には監視カメラを設置し、現場事務所モニター、携帯から常時映し出す事で、現場の異常を早期に確認でき、急激な増水による事故を未然に防いだ。

〔危機管理型水位計〕

〔現場監視カメラ〕



3. その他工夫している点

施工箇所が狭隘している為、施工手順を明確化し、周知する必要があった。施工ステップ及び、重機のシミュレーションの3次元モデルを作成し、施工計画や重機配置の検討を行うことで、作業員の理解補助や意見箇所の把握によるリスク軽減を図ることができた。

〔施工ステップ周知〕



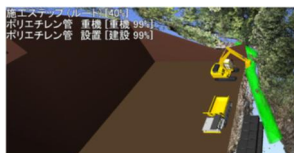
① 土のう設置



② 砂防土工：掘削



③ 切回し管設置



④ 本堰堤コンクリート打設



北川ヒューテック株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

（目標）リスクアセスメント活動に創意工夫を取り込み、重大災害・公衆災害を根絶する。

（方針）新たな視点で職場を見つめ、全員で努力する。

- ① 安全3原則の徹底（1. 整理整頓、2. 自主点検の励行、3. 作業手順の遵守）
- ② 公衆災害に対する事前対策の徹底
- ③ 毎日の作業安全指示の徹底
- ④ 不安全行動の根絶（労災事故の削減）
- ⑤ 健康に配慮した職場環境づくりの推進

2. 現場等における具体的な取組事例

① R6能越道横田徳田大津舗装復旧工事における安全管理上の課題

本工事は、能越自動車道の徳田大津 IC～横田 IC 間の震災復旧工事である。工事の特性上、概数発注であり、先んじて工事区間 10.5km 内の施工箇所を選定する必要があったが、従来の路面性状調査では、片側 1 車線の道路で長時間の片側交互交通規制を伴うことが大きな課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

「アクションカメラを用いた簡易路面性状診断（Hutec Scan Q）」にて工事区間 10.5km の路面性状を測定した。これは車両のフロントガラス内側に取付けた GoPro で走行中の路面動画を撮影し、画像解析でひび割れ率、わだち掘れ量、IRI（乗り心地の指標）を算出するものであり、交通規制を伴わないことで、従来の調査方法と比較して、現地で調査する作業員を削減し、また、一般ドライバーの交通規制によるストレスを軽減することで交通安全にも寄与した。



3. その他工夫している点

- ・熱中症の原因となる、体の「熱ごもり」を発症前に感知しリスクを知らせる熱中症対策バンド（I-BOW）を現場に従事するもの全員に装着させた。暑熱下で一大事になる前にアラーム、LED 表示で知らせ、水分補給や休憩を促した。
- ・安全教育訓練に工事現場事故体験 VR システムを活用した。
- ・AI カメラによる自動信号制御を用いた片側交互通行規制を試験的に実施し、交通誘導員の安全性向上、省人化に努めた。



1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生活動実施計画の策定

「災害・事故・職業疾病/感染の発生は許されない」の信念のもと、「目的と改善への意識をはっきりと持つ」に基づき安全衛生活動計画を作成・実践している。

②令和7年度 安全衛生管理目標

I) 発生労働災害件数ゼロの達成

II) 第三者災害となる事故発生ゼロの達成

III) 従業員等の健康障害・体調不良等の疾病発病ゼロの達成

③施工検討会の実施

作業着手前に工事担当者と管理職等による施工検討会を開催。施工計画書等をもとに施工内容の確認及び、安全管理上の重点事項や対策についての検討を行い、社内全体で事故防止に努めている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①「R6.7 柏崎維持管内トンネル補修他工事」における安全管理上の課題

本工事は、国道8号線のトンネル（3施設）を補修する工事である。交通規制を伴う高所作業が大半なため、

I. 規制作業時の交通事故防止

II. 作業員の墜落事故及び、飛来・落下などによる第三者災害の防止 が課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

I. 規制作業の手順書を作成し、役割り分担を明確にすることで災害リスクの低減を図った。

II. はつりくずの飛散防止のため防護柵及び転落・落下防止のネットを設置し第三者災害の防止に努めた。

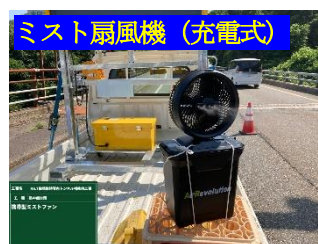
以上の結果、無事故・無災害で工事を完成することができた。



3. その他工夫している点

交通誘導員の熱中症リスクが大きいことから、ソーラー発電式休憩ハウスを設置したほか、ミスト扇風機の配備及び体調管理用に熱中対策バンドを支給し体調管理を行った。

（ミストファンは好評で、急な体調不調者を出さなかった。）



株式会社関組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の構築

毎月開催される中央安全衛生委員会において全社安全衛生目標の設定・安全パトロールの実施報告・その他安全衛生に関する協議を行い、決定事項はWebにより速やかに各部所及び現場に水平展開している。

②安全衛生活動の徹底

年度毎の安全衛生管理活動計画表に基づき、リスクアセスメント KY、各種教育・協議会、安全施工サイクル、店社・事業主・経営層によるパトロールを実施している。

③安全大会の実施

毎年、全職員及び協力会社参加のもと安全大会を開催し、外部講師による特別講演をはじめ工事下請表彰、社内表彰、安全の誓いを執り行い組織全体の安全意識向上に努めている。

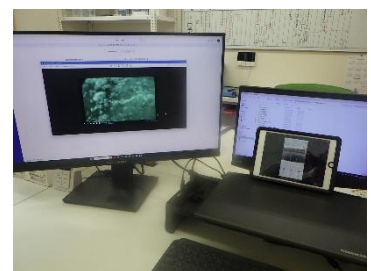
2. 現場等における具体的な取組事例

①敦賀港(鞠山南地区)岸壁(-9m)ケーソン仮置場整備工事における安全管理上の課題

本工事は、水深 14.5m~22.5m での施工(捨石荒均し)であり、作業船上や施工管理者からは、潜水士の安全状態や水中の施工状況を直接把握できないという課題があった。

②課題に対して現場で行った安全対策

不可視部である水中作業の安全管理・作業手順確認を容易にするため、水中カメラを導入した。また、無線 LAN および 5G 通信を活用した映像伝送環境を構築することで、当初の専用モニター表示に加え、現場事務所等の遠隔地からもリアルタイムで現場状況をモニタリング可能とした。



3. その他工夫している点

本工事では、安全管理体制の強化を図るため、各船舶に Web カメラを設置し、リアルタイムな現場監視体制を構築した。これにより、気象・海象の急変や危険作業の早期発見が可能となった。また、打合せや会議等により現場代理人や監理技術者が現場を離れる際も、現場事務所内の技術者が遠隔監視を継続して実施することで、常に安全状態を把握できる体制を整え、事故の未然防止と安全性の向上に努めた。



創和ジャステック建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全で快適な現場を作るための取り組みの強化

会社と現場が一体となり、店社パトロールによる指導、社内安全衛生教育の実施、もしか事案・ヒヤリハットを踏まえた危険予知活動等の充実を図っている。

② 事故防止重点対策の強化

「墜落・転落」「第三者災害」「車両・機械工具の取り扱い」「ヒューマンエラー・不安全行動」による事故防止を重点取り組み対象とし、保護具の適正使用、各種点検の徹底のほか、下請事業者と協働して現場での安全教育の充実を図っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 「令和5・6年度三段滝地区洞門補修工事」における安全管理上の課題

本工事は、「天下の嶮・親不知」として知られる国道8号の洞門補修工事であり、狭隘な洞門内での片側交互通行規制による施工となり、特に、鋼製洞門補修時の吊り足場は通行車両のための建築限界の確保が求められ、極めて狭小な環境での作業を余儀なくされた。

② 課題に対して現場で行った安全対策

1) 鋼製部材塗装には鉛が含有するため、ケレン作業では「循環式ブラスト設備」を設置し、保護具・防護服の適切な着用、外部への飛散防止を徹底するとともに、狭所での熱中症対策として、こまめな現場巡視の実施、塗装工は交代で実施するなど安全管理に努めた。

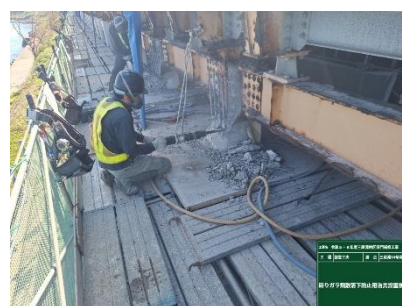
2) 梁・柱部の補修は足場や高所作業車上の作業となり、資機材の吊り上げ、荷下ろしを頻繁に行う必要があることから、墜落・転落防止対策、並びに飛来・落下対策を徹底した。



洞門内の片側交互通行



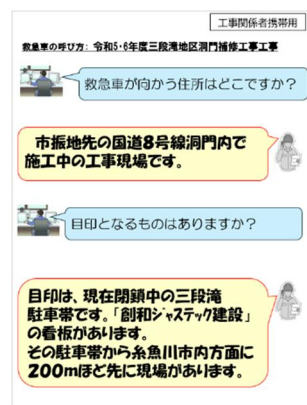
吊り足場内の作業状況



はつり作業時の飛散防止対策

3. その他工夫している点

下請の作業員には現場の土地勘がない者も多いことから、事故発生時に『誰でも迅速に救急車を要請すること』ができるよう、119番通報の際に現場の位置を説明する「セリフ」を作成し、現場内・現場休憩所への掲示、並びに下請作業員の通勤連絡車両への搭載を行った。



田中産業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 三大災害の撲滅

墜落・転落災害の防止、車両系建設機械・クレーン災害の防止
崩壊・倒壊災害の防止

② 第三者災害・交通災害の撲滅

ライフライン事故防止対策の強化、安全運転教育の充実

③ 健康保持増進対策の充実

感染症防止対策・ストレスチェック・SDS 周知・産業医指導

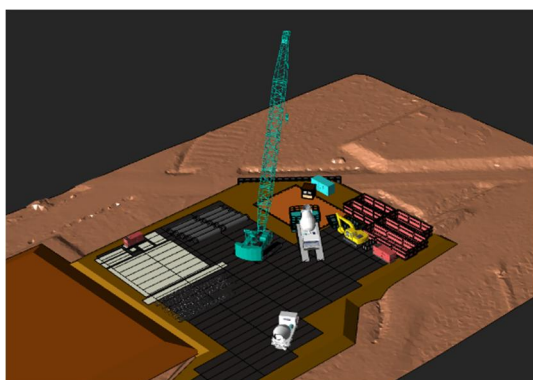
2. 現場等における具体的な取組事例

① R6 上沼道 米岡第一高架橋下部その7 工事における安全管理上の課題

工事の特性として、近接した農道下に農業用パイプラインがあり、施工ヤードの広さに制限があった。また、狭隘な仮締切内での施工であり、機械と作業員が接触するリスクが大きい現場であった。各工種毎の機械配置計画が必要であり、場所打杭の施工時では資機材、生コン車、作業員が限られたヤード内に混在することから、機械・車両の配置や動線を明確にした安全な作業計画の立案が課題となった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

CIM モデルを活用し、機械・車両の配置・動線を可視化することで、施工前に作業手順の検討や干渉箇所の共有を行い、安全な作業計画の基、無事故で工事を完成させた。



3D 施工ステップ 場所打杭施工時



作業計画 周知状況

3. その他工夫している点

・現場作業環境の充実

【 雨具乾燥室・ヘルメットシャワー（洗浄・除菌）・快適トイレ等 】

・熱中症防止対策の強化

【 プレクーリング（氷菓子常備）・充電式クーラーボックス・スポットクーラー等 】

中越興業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理計画の策定と確実な実施の徹底

『労働安全衛生に関係する負傷及び疾病を防止するために、安全で健康的な労働条件を確保する』ことを基本方針とする安全衛生管理計画書を策定し、全社員が安全・安心で快適な職場環境づくりに取り組んでいる。

②安全管理体制の構築

当社では労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001 を認証取得・運用しており、各作業所において当初から安全リスクの評価、低減対策、監視方法等を中間から最終の評価まで一貫して行い、会社側からもその運用と実施状況をパトロール等で巡回指導している。

③安全衛生活動の実施

月 1 回実施の店社パトロールや年 4 回の協力業者合同パトロールでは安全だけでなく、施工体制、品質、環境等、多角的な視点で確認し問題点の早期抽出を行い、解決に向け会社と作業所が連携し取り組んでいる。なお、パトロールの結果内容は、総合システム安全協議会で全社員に周知、水平展開されている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①令和 6 年度押場進入路その 6 工事における安全管理上の課題

本工事は、市道押場線(幅員約 4m)上に仮栈橋(幅員 10m)を架設する工事であり、現況地盤は平坦な場所のない緩い傾斜地である。また、架設する仮栈橋の山側には、電力柱及び架空線(高圧線を含む 5 条)が近接している。仮栈橋を架設する上で、広大な作業スペース(施工及び資材ヤード)が必要であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

もし架空線の破断等が発生した場合は、利賀村近辺への電力供給が停止する事態が生じ、社会的な影響が大きいため、施工範囲全域の架空線に防護管を取り付け、事業損失防止を図った。

また、仮栈橋架設において、ダウンザホールハンマ工法の工法変更(C工法/テーブルマシン式からA工法/クレーン式)を行い、作業床及び安全通路を確保することで狭隘な場所での作業環境の改善を行った。



3. その他工夫している点

1) 毎日、2) 毎月、3) 随時の各種安全管理活動を実施し、作業従事者全員による安全管理を行った。1) 1 人 1 答 1Pt. によるリスク危険予知活動の実践 2) 避難訓練や墜落制止用器具の使用方法的の確認など現場条件に適した安全教育訓練の実施や輻輳が予想される期間の災害防止協議会や関連工事との調整のための工事連絡会の開催 3) 現場条件を考慮した新規入場者教育を行った。

砺波工業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

当社は、企業活動に関わる全ての人々の安全を優先し、労働災害の防止を図り、心身ともに健康で快適な職場環境を形成する。

②安全衛生目標

1. 休業4日以上労働災害ゼロを目標とする。
2. 社員の心身の健康の保持増進を図るため、また法規制順守の観点からも、過重労働者の削減に努める。

③安全衛生活動の実施

年間計画に基づき、安全大会(年1回)、安全衛生委員会(月1回)、店社安全パトロール(各現場月1回)実施している。また、現場の衛生面を主眼とした現業以外の女性パトロールも実施し、職場環境の改善に努めている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①伏木富山港(伏木地区)右岸5号物揚場(災害復旧)本体工事における安全管理上の課題

本工事は、L型ブロックの製作・転置とヤード整備、伏木分室の解体・撤去を行う工事である。工事場所が県道に面していること、また道路に沿って架空線が存在していることから、第三者による事故や架空線の損傷等の公衆災害のリスクが懸念された。

②課題に対して現場で行った安全対策

工事に先立ち、架空線に防護カバーを取り付けた。また、工事用車両出入口には高さ制限ゲート(門扉)を設置し、同ゲートからの出入りを徹底することで、架空線に関する事故の防止を図った。さらに、現場への立入禁止措置として道路沿いにバリケードを設置したが、道路がカーブしており見通しが悪かったため、バリケードに点滅灯を取り付け、夜間の視認性を向上させた。これらの安全対策により、無事故で工事を完成させることができた。

3. その他工夫している点

伏木分室の解体・撤去においては、解体時の騒音、破片の飛散や粉じんの発生が予想された。そのため、道路沿いに仮囲いを設置して騒音の低減および飛散対策を行うとともに、解体箇所に散水を行うことで粉じんの発生を抑えた。その結果、苦情もなく、無事故・無災害で工事を終えることができた。



富山地鉄建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生基本方針

当社は、富山地方鉄道の鉄軌道事業の保線整備を主としている事から、「公共性」と「企業性」の両立を念頭に置きながら、安全を最優先とする企業風土の確立に努めている。

「安全を業務の最大の使命」であることを肝に銘じ、安全意識が薄らぐことのないよう、また社会の変化に対して「変わる勇氣」を持ちながら、常に安全活動におけるマンネリの防止を徹底する。

②安全衛生活動の実施

年間計画に基づき、年2回の安全大会、各現場月1回の店社安全パトロールを実施し現場の安全環境の改善に努めている。また、工事前に取締役を含めた施工検討会を開催して施工計画に反映し、その議事録を社内全体で共有している。

③安全管理活動に対する取り組み

富山県との災害応急対策業務協力関係を構築しており、また、立山駅で観光シーズン前に実施されるテロ対策訓練、防災訓練に参加し、地域との連携を強めるとともに、全社員の意識の向上に努めている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①R7 砂防専用軌道保線補修工事における安全管理上の課題

本工事は、立山砂防工事の資材・人員の運搬を行う砂防専用軌道（延長約18km）の保線・補修・点検を行う特殊な工事である。軌道敷は急峻で狭隘で重機による作業は殆ど行えないため、多種多様な作業を殆ど人力にて行わなくてはならない。作業員の高齢化により経験者が減ったため、若手作業員の安全意識・知識の向上が課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

現場事務所近くの資材置き場に訓練用施設を製作し、安全教育訓練に実地訓練を多く取り入れた。消火訓練では地元消防団員を講師に招き実際に消火器を使用した。若手への効果のほか、教える立場になる中堅社員の意識を向上し無事故で完工できた。



3. その他工夫している点

建設業労働災害防止協会から講師を招き、研削といし・刈払い取扱・熱中症に関する安全衛生教育を、本作業所が主体となり実施し労働災害の防止と安全意識の高揚に努めた。

株式会社豊蔵組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

すべての作業所における労働災害・事故を防止し、健康で安心して働ける職場の実現を基本として、社会的に信頼される企業を目指す。

②安全衛生目標

- ・休業災害ゼロの達成（リスクアセスメントによる潜在した危険の排除）
- ・現場職員の安全管理能力の強化（各種安全教育の実施）
- ・日常業務における確実な安全巡視・指導による不安全行動の撲滅
- ・定期健康診断等で発見された有所見者の再検診率 100%を目指す

③重点実施事項

- ・月1回開催の安全衛生委員会の実施と議事内容の周知徹底
- ・社内で工事施工検討部会を実施し、安全に関する検討会を実施
- ・各種安全パトロールの実施（店社幹部、部門別）
- ・現場職員及び協力業者への各種安全教育及び能力向上教育の実施

2. 現場等における具体的な取組事例

①R5 能越道 山ノ上地区道路改良その3工事における安全管理上の課題

本工事は、桐田川に近接した工事であったため、降雨時などの現場状況を常時把握する必要があった。また、桐田川切り回しによる施工ステップ（函渠、護岸）での安全設備や仮設計画の事前確認が重要であった。

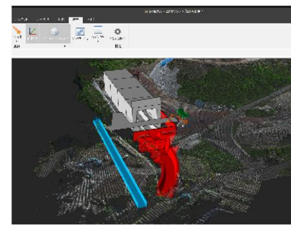
②課題に対して現場で行った安全対策

現場では、ネットワークカメラを設置し、休工时や夜間でも現場の状況を把握できるようにした。

また、BIM/CIM を活用し、函渠及び護岸工などを3次元モデル化し、施工ステップや落差工の形状、重機配置などを施工業者と事前確認することでリスク管理をおこなった。



【ネットワークカメラ設置】



【3次元モデルと施工業者との施工検討会】



3. その他工夫している点

当工事では、令和6年能登半島地震と令和6年9月奥能登豪雨の2回の大災害に直面した。どの災害も発災直後から道路や河川の啓開作業を行ったが、停電の中での作業もあったため、現場ではソーラーハウスなどを配置し作業員の体調管理にも配慮した。



【ソーラーハウス】

日本道路株式会社



1. 会社としての安全管理重点事項

- ①「働く人」との事前打ち合せと、教育・指導・確認、法令・基本ルール・作業手順の順守、安全施工サイクルの確実な実行による労働災害の撲滅
- ②第三者・地下埋・架空線等の事前・施工中確認および視える化等防止対策を「働く人」へ周知・指導強化による公衆災害の撲滅
- ③安全法令教育の徹底を前提とした日常活動を実践し、安全衛生法令の遵守
- ④現場および工場における作業環境リスク低減をはかり、業務上疾病の予防

2. 現場等における具体的な取組事例

①R6 249号輪島地区舗装復旧その1工事における安全管理上の課題

本工事は震災で被害があった輪島バイパスの災害復旧工事であった。

各所復興事業に伴い交通量が多く近隣に仮設住宅もあり、作業エリアも狭い状況下の工事であるため、安全管理上の課題として①：一般車両の安全走行確保、渋滞緩和、歩行者通路確保②：重機による災害の防止が挙げられた。

②課題に対して現場で行った安全対策

①として、交通規制形態を細分化した。条件を満たした工種規制形態、歩行者通路の計画・検討・改善を繰り返し、数十通り計画し実践して条件を満たした。

②として、バックホウは全て自動停止装置付きとし、タイヤローラには巻き込まれ防止柵と自動停止装置を装備した。バックホウの自動停止装置が使用できない吊荷作業等に於いて、インカム（4者同時通話）無線機を使用し、重機による災害を防止し無事故で工事を完成できた。



自動停止バックホウ



自動停止装置付きタイヤローラ



インカム

3. その他工夫している点

- ・工事車両後退時の接触事故防止として専任誘導員・熱中症防止対策として冷房車を配置
- ・切削廃材飛散による公衆災害防止として車両養生・上空架線接触防止として路面標示



専任誘導員



冷房車



一般車両養生



上空架線路面標示

日本海建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の確立

毎年、安全衛生基本方針を表明し、それに基づく安全衛生管理計画及び月別行動目標を定め、法令改正の周知・説明、ストレスチェック、安全衛生大会等を実施している。各取組の実施結果を評価し、不具合があれば見直し・改善を行っている。

②安全衛生管理体制の構築

安全衛生委員会を毎月開催し、店社パトロールの是正・改善事項を取りまとめ、委員で討議の上、危険・有害性を洗い出し、対応策を立案している。議事録等は社内サーバーに格納し、全職員で情報共有している。また、健康経営優良法人認定制度を通じ、健康投資を組織活性化の重要な取組と位置付け、社員の健康状態や働きやすさの「見える化」を進めている。

③安全衛生教育の実施

建防災石川支部講師である店社土木管理部長が、若手社員を中心に資格取得に向けた安全衛生教育を支援している。また、能登半島地震における自然災害の安全指導員として、現場指導や安全講話等の支援活動を積極的に行っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①工事における金沢港(大野地区)泊地(-10m)

土砂運搬工事(その3)における安全管理上の課題

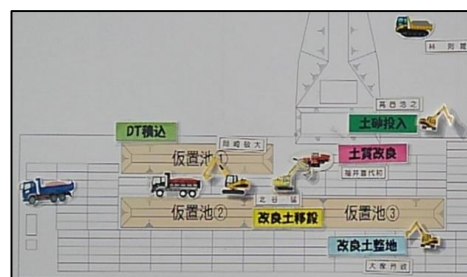
本工事は、①狭小箇所での土砂積込みと運搬車両の通路確保が必要であり、重機との接触事故防止が課題となった。②専任運転手の確保が困難なため、現場内の重機や運搬車両の配置箇所の周知不足によるヒューマンエラーを防止する安全対策が必要となった。



①建設機械と工事車両の分離措置

②課題に対して現場で行った安全対策

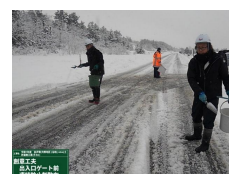
①重機旋回時の通行車両との接触防止のため、工事用通路中央にカラーコーンを等間隔に配置し、通行帯を分離した。②KY時に当日の作業計画図及び進捗状況看板を活用し、作業箇所や作業員の配置を全運転手に周知することで、安全意識の向上を図った。



②KY時の周知活動

3. その他工夫している点

- ・冬期施工に伴う道路の積雪・凍結に対応するため、出入口ゲート付近に凍結防止剤を常備し、路面状況に応じて適宜散布することで、工事車両等のスリップ事故防止対策を行った。
- ・工事用道路の轍掘れを防止するため、補足材の搬入・敷均しによる維持管理を行い、車両通行時の段差による振動・騒音を抑制するとともに、工事用車両の円滑な走行を確保する。



株式会社笛田組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制

弊社の安全衛生管理規定に基づき、安全管理組織を定め、安全な作業環境を構築するための安全衛生管理計画を作成・実施し、実績を取り纏める。

②年間スローガン『安全第一、品質確保、技術研鑽に努め、公共の一員としての責任を果たす』

1. 安全： 検討、改善の継続による事故防止

(店社パトロールを月に2回実施し、現場点検を徹底し、設備・行動を改善する)

2. 衛生： 自己管理の徹底 (社内教育・安全教育訓練等による意識向上を図る)

3. 品質： 根拠を踏まえた管理による品質確保 (社内施工検討部会等を活用する)

4. 環境： 周辺環境に合わせた施工方法の採用 (地元とのコミュニケーションの強化)

5. 行動： 人任せにしない、自分で行動 (資格取得、講習受講を推進し SKILL UP を図る)

2. 現場等における具体的な取組事例

①二子沢下流砂防堰堤その7工事における安全管理上の課題

本工事は、平成23年新潟・福島豪雨にて効果を発揮した砂防堰堤を改築し、設備の安全度を向上させるものである。施工箇所は、巻機山の3つの溪流が合流した下流部となり、各溪流は、不安定土砂が堆積したV字谷であるため、出水が早くまた土石流も考えられることから、その対策がこの現場における安全対策最優先の課題であった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

1. 土石流等の安全対策として、土石流警報装置や河川・場内監視カメラ、上流部にWEB閲覧可能な雨量計等を設置し、現場事務所・スマートフォンで状況把握し緊急避難や作業中止の判断を速やかに行える対策を実施した。

2. 新規入場者教育・安全教育訓練・避難訓練(毎月)・TBM、KY等で緊急時の対応、避難経路の確認等を徹底し、意識の向上を図った。また、安全施設設置計画に基づき、避難経路図・作業中止基準等を掲示し、円滑な避難誘導や注意喚起を行った。



土石流警報装置



監視カメラ



上流部 WEB 雨量計



避難経路表示



避難経路図・作業中止基準

3. その他工夫している点

熱中症対策として、現場休憩所を2箇所設置し、ポータブルミストファンを配置した。WBGT 値を現場内に3色旗で掲示し、注意喚起を行った。



現場休憩所



ポータブルミストファン



WBGT 表示旗

藤森建設工業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の構築

安全衛生委員会を組織し年度毎会社安全衛生目標、目標達成のための基本方針、会社及び作業所の重点実施事項を定め安全衛生規定に基づく安全衛生委員会により安全パトロールを実施し安全衛生改善指導を行っている。

②若手社員を加えた店社安全パトロール

月2回以上の店社安全パトロールを行い、内1回に若手社員を安全パトロールに参加させ着目視点に変化を加えて点検し若手社員の安全に関する意識向上教育行っている。

③施工準備会議の実施

工事開始前、及び、重点作業前等に「施工準備会議」を開催し、工事の進捗に合わせた作業計画・作業手順の確認指導を行っている。また、事故・災害事例を参考に注意喚起文書を会社から各作業所に送信して作業計画等に活用している。

2. 現場等における具体的な取組事例

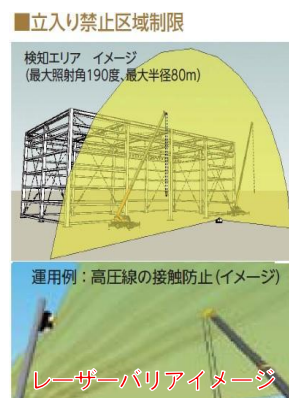
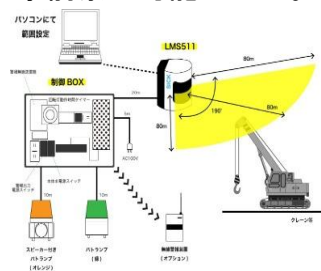
①常郷地区築堤護岸工事における安全管理上の課題

本工事の築堤施工箇所内に移転予定の電柱が存在し架空線が非常に近接しており重機による架空線の損傷事故が懸念された。

②課題に対して現場で行った安全対策

- ・新規入場者教育 及び 作業前打合せにて架空線の位置高さの周知徹底、作業員全員による現地状況確認・対策方法の確認を実施した。
- ・専用安全施設の設置

「レーザーバリア警報監視システム」を導入し重機アームの架空線接近を回転灯と重機操縦席警報機にて事前察知可能とした。



3. その他工夫している点

- ①WEBカメラ設置により休日・夜間の河川状況の監視や防犯体制を構築した。
- ②現場へのメインアクセス道路が狭窄曲線であり夏期等の草木繁茂期は見通しが悪く大型工事車両の運行が一般車両通行の支障となることから定期的に草刈りを行い見通しの改善や地域環境配慮を行った。
- ③重機旋回時の後部接触事故防止のため「後方安全明示板」を取り付け、旋回範囲を明確化し「工事現場の見える化」を進めた。

北陽建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

常に安全を考え、すべてに優先させ、社員をはじめ協力会社と一体となって災害・事故の撲滅をはかる。

②安全衛生目標

1. 法面作業時の落石等による飛来落下災害の防止
2. 資機材やホース類のつまづきによる転倒災害の防止
3. 資機材搬入時の手足のはさまれ災害の防止

③全社安全衛生活動の実施

労働安全コンサルタント参画の安全衛生パトロール（月8回）を実施し、その結果を安全衛生委員会（月1回）・安全大会（6月）で全社員・協力業者に水平展開し、是正と改善に取り組んでいる。

2. 現場等における具体的な取組事例

①R6 葛葉上流右岸山腹工工事における安全管理上の課題

本工事は、仮締切工にビーハイブブロックを用いて施工を行った。ブロック運搬・据付作業は重量物の吊作業となり、通常であれば作業員による玉掛作業や、合図者による誘導作業が必要であることから、吊荷周辺での作業となり、吊荷との接触や吊荷の落下により、重大災害が発生するリスクが懸念された。

②課題に対して現場で行った安全対策

当現場では上記リスクへの対策として、玉掛作業を必要としないバックホウ特殊アタッチメント（把持アタッチメント）を使用したブロック積込・積み下ろし・据付作業を実施した。把持アタッチメントを使用したことにより、作業員が吊荷に接近する必要がなくなり、接触等による災害発生リスクを排除することができた。



【ブロック把持アタッチメント】

3. その他工夫している点

- ・本工事は河川内作業であったことから、土石流の発生や急な河川の増水などについても早期に検知する必要があり、土石流センサーの設置、投げ込み式水位計の設置、AI 解析機能（異常検知機能）を備えたライブカメラを設置した。



【AI 解析機能を備えたライブカメラ設置】

宮口建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全意識の高揚

安全品質と健康を最優先とし、相互に啓発を図りながら、揺るぎない安全文化の確立を目指す。

②品質安全の構築

I S Oを構築し品質目標を設定し、P D C Aを運用し、継続的改善を図る。

③職場のメンタルヘルス対策の推進

心身 (mind and body) 共に健全であること。

2. 現場等における具体的な取組事例

①片掛工区除雪作業における安全上の課題

・本作業は、一般国道41号における2車線区間の除雪作業で、作業区間には山間部、平地部、市街地部といった様々な地形・地域条件によって構成されている。これらに加え、5%を超える急勾配区間(スタック車両の発生)、スノーシェッド・トンネル区間、橋梁区間、路肩狹隘区間等、道路構造が複雑に変化する条件下で安全で確実な作業を行うことが要求される。このため、オペレータへの要注意区間・危険箇所の周知徹底が課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

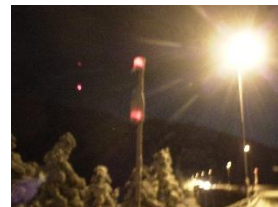
・橋梁ジョイント部、投雪禁止箇所、幅員が狭い箇所、冬期工事箇所、苦情があった箇所、除雪路線内の要注意区間・危険箇所のハザードマップを作成した。新規入場者教育時、安全教育訓練時、出勤前のミーティング時に作成したハザードマップを活用し作業に従事するオペレータに周知することで、現場での要注意・危険箇所の周知徹底と共通認識がなされ、無事故で作業を終えることができた。

片掛工区除雪作業ハザードマップ



3. その他工夫している点

①橋梁ジョイント部に発光灯を装着したスノーボールの設置。



写真① スノーボールに発光灯を装着

②スタック車両を減少させるための注意喚起看板の設置。



写真② 注意喚起看板の設置

③災害・停電時の備えとして非常用電源の準備。



写真③ 非常用電源の準備

④トルクレンチを使用し締め付け具合を正確にし、ナットの緩み・損傷を防いだ。



写真④ トルクレンチによる締め付け状況

株式会社山崎組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生マネジメント組織による安全管理

ISO45001に基づく安全衛生管理体制を確立し、法令・規則チェックリストを活用するとともに、リスクアセスメントを取り入れた安全管理を実施している。

②安心して仕事ができる環境づくり

気象観測表示板を設置し、作業時の気象状況を分かりやすく周知している。

男女別トイレを設置し、安心して利用できる環境を整備している。

③社内安全パトロールの実施と是正処置の迅速化

女性社員を含む社内安全パトロールを月2回実施し、多様な視点から現場の安全状況を確認している。

結果はクラウド型業務アプリで社内共有し、是正完了後の写真をアップロードすることで、対応状況を確認している。

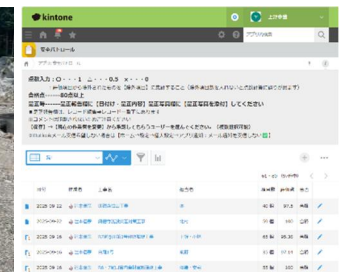
気象観測表示板の設置



女性社員を含むパトロール



パトロール結果はアプリで共有



2. 現場等における具体的な取組事例

①R7尾添川第3号砂防堰堤工事における安全管理上の課題

本工事は、両岸が切り立った尾添川の岩盤峡谷内で、左岸下流側から進入し右岸側で作業を行うため、出水時に工事従事者が取り残されるおそれがあった。このため、降雨状況や予測を把握するとともに、渡河中止基準の設定、右岸側からの避難通路の確保および異常を知らせる警報装置の設置が必要であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

工事中止基準より厳しい渡河中止基準を設け、右岸側から安全に退避できる避難通路を設置し、退避経路を確保した。

コンクリート打設等の連続作業では、気象リスク管理モバイルを活用し、降雨が予測された場合は作業を中止するなど、安全管理を徹底した。

右岸からの避難通路



3. その他工夫している点

休憩所に冷蔵庫や飲み物・冷却材等の熱中症対策備品を配備し、工事従事者の熱中症予防に努めている。

冷蔵庫・飲み物



熱中症対策備品

